

平成30年1月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年1月の山梨県内の全業種のD I値は、業種により景況感の明暗に大きな差が生じ、前年同月比で、売上高は10ポイント、収益状況は16ポイント、景況感2ポイント改善しているが、ニュース等メディアで公表されているように継続した景気の回復傾向はあまり感じられない結果となった。

前月比で比較すると売上高、収益状況は共に不変、景況感8ポイント悪化している。

業種別のD I値において、製造業における前年同月比は、骨材製造において製品出荷量の減少の報告があったが、食料品や一般機器の業界が好調で製造業全体として、売上高は35ポイント、収益状況は20ポイント、景況感20ポイントそれぞれ改善した。

一方で、非製造業においては、原価の高騰や、低温の気候が続き消費が縮小。前年同月比から売上高が7ポイント、景況感10ポイントそれぞれ悪化、建設業と運輸業が牽引役となり収益状況のみ13ポイント改善した。

年度末に向け、業種によっては繁忙期であるが年々仕事の総量は減少している。また、仕事に対し、人材が不足し受注に対応できないとの報告があり、多くの業種で人材確保は引き続いて課題である。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

食料品（水産物加工）	ギフトは前年並みだが、ホテル・レストラン・居酒屋向けの業務用及び原材料が低調で、全体の売上は前年同月比で90.0%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の売上は専門店向けと量販店向けが好調で107.3%。OEMは焼き菓子、冷凍ケーキとも好調で124.7%。
食料品（麺類製造）	4/10「ほうとうの日」に向けてイベントを計画中。初めてのイベントだが業界の活性化につながるよう期待している。
食料品（パン・菓子製造業）	売上高は前年同月比8%増加。
繊維・同製品（織物）	マンション等のインテリア商品の需要が高まっている。傾向として高額な物の動きがある。
窯業・土石（砂利）	出荷量は地域によりばらつきがあるが、工事量が増加し、需要が高まっており骨材が不足気味。
窯業・土石（山碎石）	製品出荷量の減少に歯止めがかからない。リニア中央新幹線の工事や関連の公共工事が始まるまでは、見通しは暗い。

鉄鋼・金属	仕事量の増加から売上高、収益状況、景況感とも5%増加。
一般機器	半導体及び自動車関連の製品が回復傾向。物価の上昇から売上高は5%増加したが、収益の改善にはつながらない。
電気機器	国産初のジェット旅客機の契約40機がキャンセルされた。開発の難航により度重なる納期延期が原因だが、今後キャンセルが増えないことを期待している。毎年のようにコストダウンの要請があり、先行きは、不透明である。
宝飾(貴金属)	IJT(国際宝飾展)が行われ、海外からのバイヤーとの活発な取引が行われ売上高が15%増加した。

● 非製造業

卸売(紙製品)	中国への古紙類の輸入規制による影響から、売上高で5%、収益状況及び景況感はそれぞれ10%悪化。
卸売(ジュエリー)	IJT(国際宝飾展)への組合員が多数出展し、ある程度の反響があった。4月に行われる甲府ジュエリーフェアに多くのバイヤーが来場し、取引が行われることを期待している。
小売(青果)	昨年からの原価の高騰に加え、強い寒気の影響から野菜の生育不良、低温障害が発生。品薄から販売価格が30%増加しているが売価に転嫁できず収益状況を圧迫し20%悪化。価格安定が望まれる。
小売(石油)	今年に入り原油価格の推移は前年に比べ安定してきている。燃料物流部門においては運転手の不足により配送コストの上昇を懸念している。
宿泊業	寒気の影響から外出を控える傾向があるのに加え年始の曜日の並びが悪いことから集客数が減少した。組合員外ではあるが、海外からの宿泊客に対し低価格競争が行われ、今後の価格競争を懸念している。
美容業	組合員の高齢化が組合の脱退につながり、組合員数が少しずつ減少している。組合に加入しない若い経営者に組合のメリット等を伝え、組合の加入に結び付けるよう検討を行っている。
警備業	リニア中央新幹線や災害復旧の公共工事等の増大に伴う警備員の派遣要請への対応に苦慮。また、仕事量の増加に伴い、従来からの取引先への対応が難しいことから、他社からの紹介や応援要請のやり取りが増加している。警備員の求人倍率は高く、人材の確保が極めて困難な状況である。人材確保の課題対応のため、警備員の処遇、職場環境の改善を行い他業種への転職防止を講じている。
建設業(総合)	1月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は3%増加したが、請負金額は98%と減少している。今年度の累計においては件数は4%、請負金額は6%減少している。
建設業(型枠)	年末から工事量が増加し、この傾向は年度末まで続くと思われる。去年は4月から夏にかけての仕事がなく、今年は各社年度はじめの工事確保に動いている。東京、神奈川の首都圏は仕事が多く、長野などは少ない地域傾向がある。
建設業(鉄構)	技術者・技能者の人材が不足している。年度内の仕事量は確保できてはいるが、受注は首都圏などの県外物件に依存する傾向が続いている。
設備工事(電気工事)	組合員企業の技術者の高齢による退職者が増加。組合としては業界維持のため、組合員企業の人材確保定着や、組合への新規加入者の取り組みを行っているかなければならない。

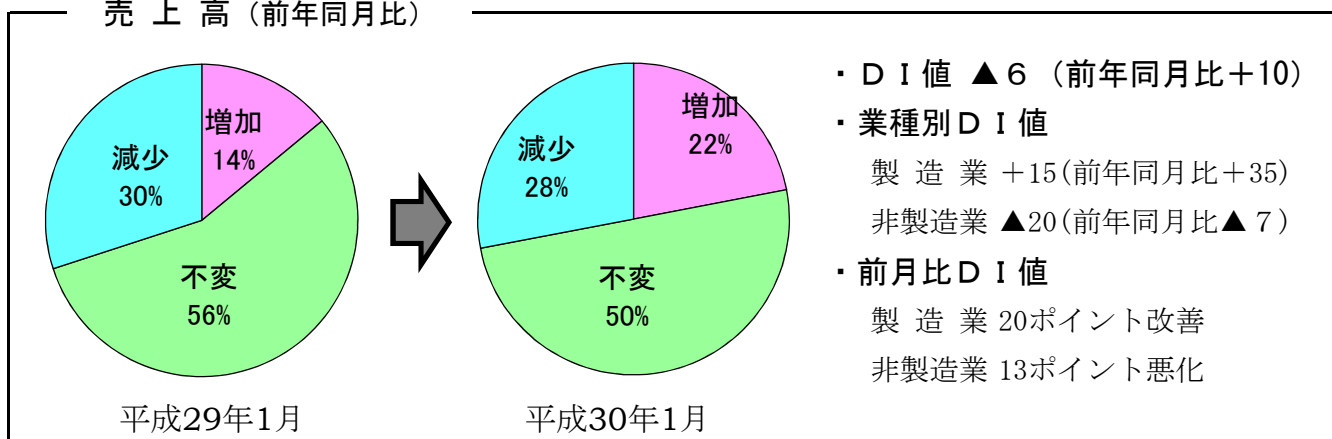
設備工事（管設備）	国では「働き方改革」を進めているが、当業界では慢性的な労働者不足により実現に至らないと思われる。公共事業及び住宅工事の減少が主な原因となり、売上高は7.9%悪化した。
運輸（タクシー）	企業の新年会によるタクシー利用者の増加は期待が外れ、売上は2.5%減少。夜間の利用者が少ない。
運輸（バス）	ドライバー不足が業界全体での課題。燃料価格の動向を注視している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

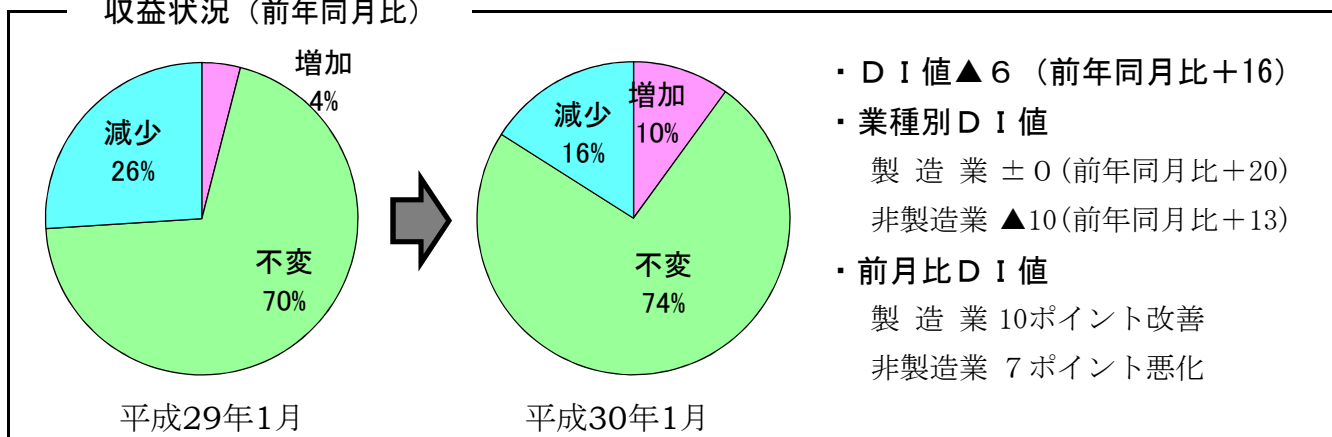
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/01	2017/12	2018/01	2017/01	2017/12	2018/01	2017/01	2017/12	2018/01
売 上 高	-20	-5	15	-13	-7	-20	-16	-6	-6
収 益 状 況	-20	-10	0	-23	-3	-10	-22	-6	-6
景 況 感	-20	0	0	-17	-13	-27	-18	-8	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

